



宮崎県で採集された九州沿岸初記録のケショウギンポ

廣津智朗¹・緒方悠輝也^{2,3}

Author & Article Info

¹ 宮崎大学農学部海洋生物環境学科 (宮崎市)
tomorouhirotsu@gmail.com² 宮崎大学農学部農学部門海洋生命科学領域 (宮崎市)
yukiyalates@gmail.com (corresponding author)³ 神奈川県立生命の星・地球博物館 (小田原市)Received 08 July 2026
Revised 12 July 2026
Accepted 13 July 2026
Published 14 July 2026
DOI 10.34583/ichthy.69.0_34Tomoro Hirotsu and Yukiya Ogata. 2026. First Kyushu record of the Tattoo-chin Rockskipper *Entomacrodus niuafoouensis* (Blenniidae) from Miyazaki Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 69: 34–38.

Abstract

A single specimen (46.6 mm standard length) of the Tattoo-chin Rockskipper, *Entomacrodus niuafoouensis* (Fowler, 1932) (Blenniidae) was collected from a rocky tidepool, Miyazaki Prefecture, eastern Kyushu, Japan. In Japanese waters, this species had previously recorded from Hachijo-jima island, the Ogasawara Islands, the Osumi Islands (Iwo-jima and Yaku-shima islands), Gajya-jima island, the Amami Islands (Amami-oshima and Kikai-jima islands), and the Ryukyu Islands. Thus, the presently reported specimen represents the first record from Miyazaki Prefecture and Kyushu. In addition, the specimens of the blennies from Nomozaki in Nagasaki Prefecture, Japan, previously reported as *E. niuafoouensis*, were re-identified as *Entomacrodus stellifer stellifer* (Jordan and Snyder, 1902) during this study.

スジギンポ属 *Entomacrodus* Gill, 1859 はイソギンポ科魚類 (Blenniidae) の一属で、鋤骨に歯を有する、上顎骨と下顎骨に 100 以上の自由に動く歯がある、頭部正中線に皮弁はない、左右の鰓膜は峽部を横断して連続する、背鰭軟条数は 13–18、背鰭は低く、中央部に欠刻がある、胸鰭軟条数が 12–15、腹鰭は 1 棘 4 軟条などの特徴を有し (Springer, 1967; 藍澤・土居内, 2013; Williams and Springer, 2022), 日本からはアオモンギンポ *E. caudofasciatus* (Regan, 1909), キカイカエルウオ *E. decussatus* (Bleeker, 1858), ケショウギンポ *E. niuafoouensis* (Fowler 1932), イレズミスジギンポ *E. sealei*

Bryan and Herre, 1903, ホシギンポ *E. stellifer stellifer* (Jordan and Snyder, 1902), スジギンポ *E. striatus* (Valenciennes, 1836), およびゴテンカエルウオ *E. thalassinus thalassinus* (Jordan and Seale, 1906) の 7 種が知られている (本村, 2026)。

2026 年 2 月 15 日に宮崎県宮崎市内海の岩礁性タイドプール内から 1 個体のケショウギンポが採集された。本種はインド・太平洋の熱帯から温帯にかけて広く分布し (Williams and Springer, 2022), 国内では八丈島, 小笠原諸島, 大隅諸島 (硫黄島, 屋久島), 臥蛇島, 奄美群島 (奄美大島, 喜界島), および琉球列島からの記録がある (藍澤・土居内, 2013; 目黒, 2013; Nakae et al., 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; 古橋・本村, 2022)。そのため得られた標本は本県沿岸初記録となる。また本種の長崎県野母崎での記録 (藍澤・土居内, 2013) の基となった標本を精査したところ, ホシギンポの誤同定であった。したがって宮崎県産の個体は九州沿岸の初記録となる。

材料と方法

計数は概ね Springer (1967) に従った。尾鰭鰭条数の計数は Springer (1972) に従い、背側と腹側のそれぞれで分枝と不分枝に分けて計数した。Preopercular series of pores と predorsal commissural pores の和訳は吉野 (1984) に従い、それぞれ前鰓蓋管孔列と上側頭管とし、pseudobranchial filament の和訳は畑ほか (2021) に従い、擬鰓弁数とした。Total number of pores before anterior nostrils は本論文では前鼻孔前方管孔数と和訳した。計測は Springer (1967) と Hubbs and Lagler (2004), および岸本ほか (2006) に従った。標本の計測にはノギスを用いて 0.1 mm 単位まで記録した。標準体長 (standard length) は SL と表記した。

標本の作製, 生鮮時の写真撮影, 登録, および固定方法は本村 (2009) に従った。調査個体は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料 (KPM-NI) として, 調査個体の写真は同博物館の魚類写真資料 (KPM-NR) として登録・保管されている。同一個体の異なる画像は同一の番号で登録され, 個別のアルファベット文字で識別される (例

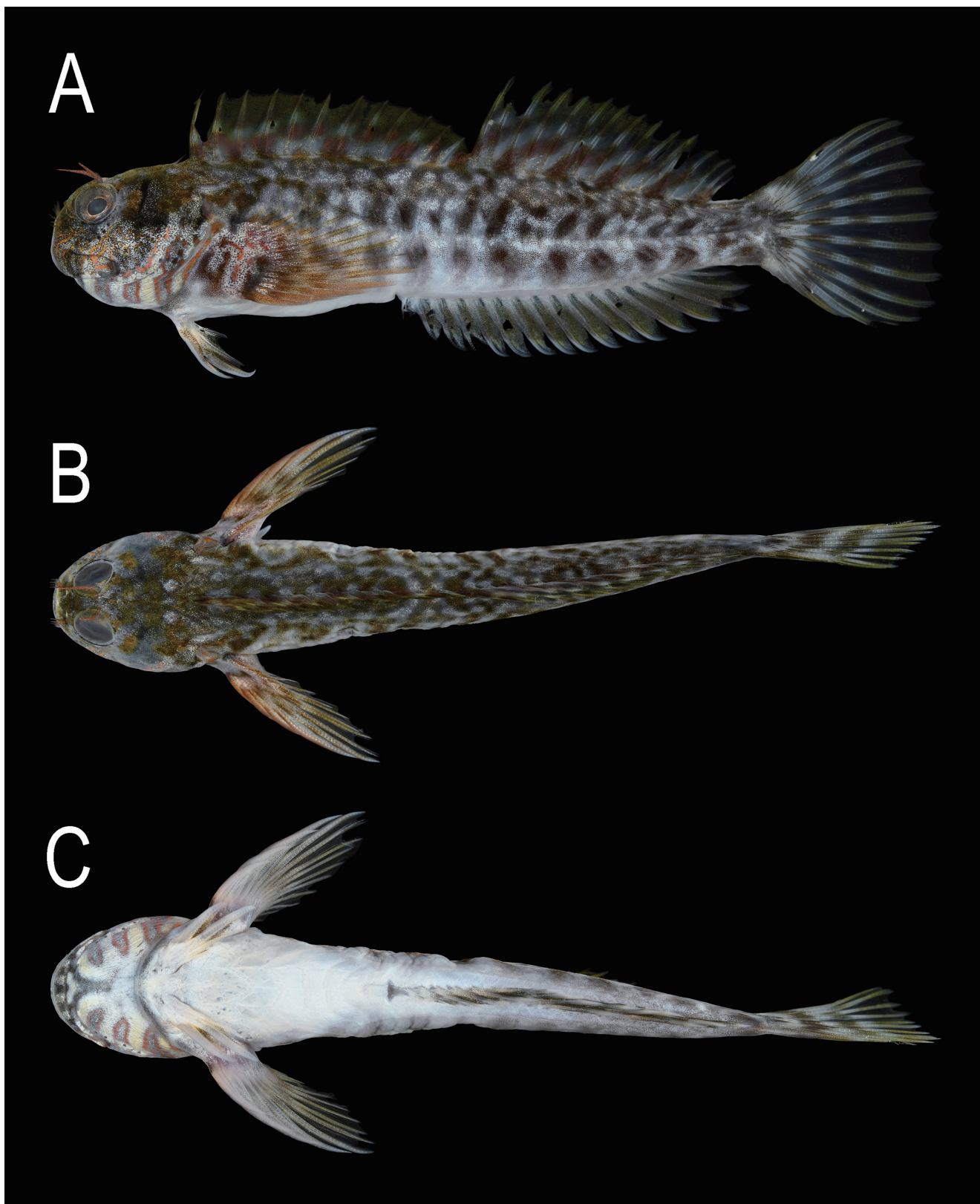


Fig. 1. Fresh images of *Entomacrodus niuafoouensis* from Miyazaki Prefecture, Kyushu, southern Japan. KPM-NI 97204, 46.6 mm SL. A, B, and C show lateral (image number: KPM-NR 292007B), dorsal (KPM-NR 292007E), and ventral (KPM-NR 292007I) views, respectively. Photos by T. Hirotsu.

えば, KPM-NR 292007A および KPM-NR 292007B). なお, 神奈川県立生命の星・地球博物館の資料番号は, 博物館のデータベース上では0を含めた7桁の数字で表記される(例えば, KPM-NI0097204). また, 本研究では, 千葉県立中央博物館分館 海の博物館 (CMNH-ZF) に収蔵されてい

る標本も用いた (後述).

Entomacrodus niuafoouensis (Fowler, 1932)

ケショウギンボ

(Fig. 1)

標本 KPM-NI 97204, 46.6 mm SL, 宮崎県宮崎市内海, 31°43'17.6"N, 131°28'05.4"E, 2026 年 2 月 15 日 22:00 pm, 岩礁性タイドプール (水深 0.2 m), 手網, 廣津智朗.

写真資料 KPM-NR 292007A–K, KPM-NI 97204 の生鮮写真.

記載 背鰭鰭条数 XIII, 16; 臀鰭鰭条数 II, 17; 胸鰭鰭条数 14; 腹鰭鰭条数 I, 4; 尾鰭鰭条数 7+6; 尾鰭分枝条数 5+4; 鰓耙数 26; 擬鰓弁数 8; 眼上皮弁分枝数 5; 項部皮弁分枝数 1; 上側頭管孔数 10; 前鰓蓋管孔列 1, 3, 2, 2, 2, 2; 前鼻孔前方管孔数 6.

体各部測定値の体長に対する割合 (%): 全長 123.2; 頭長 25.1; 背鰭前長 22.3; 肛門前長 47.4; 体高 22.5; 尾柄高 7.5; 尾柄長 9.7; 背鰭基底長 72.6; 臀鰭基底長 40.9; 吻長 5.5; 上顎長 9.7; 両眼間隔 4.3; 眼径 5.9; 眼上皮弁長 6.2; 項部皮弁長 2.8; 背鰭第 1 棘条長 9.5; 背鰭第 2 棘条長 9.3; 背鰭第 3 棘条長 9.3; 背鰭第 13 棘条長 4.3; 背鰭第 1 軟条長 14.1; 胸鰭長 27.9; 腹鰭長 15.0; 尾鰭長 23.2.

体は前方方向に細長い円筒形で、やや側扁する。体背縁は吻から眼の下縁の高さまで体軸に対しほぼ垂直、その後眼上皮弁にかけて曲線状に上昇する。そこから背鰭第 7 棘付近にかけて緩やかに上昇し、尾柄部にかけて緩やかに下降する。体高は腹鰭基部で最大になる。体腹縁は下顎先端から眼窩後縁直下にかけて曲線状に下降し、そこから腹鰭起部にかけておおそ直線状。腹鰭起部から尾柄部にかけて緩やかに上昇する。鱗はなく、口は亜端位で、上顎前端は下顎前端より突出、上顎後端は眼窩後縁直下に位置する。上唇は肥厚し、上唇の下縁全体にひだ状の突起物がある。上顎に犬歯はない。前鼻孔は円形で、眼窩下縁前方に位置し、鼻皮弁直下に開孔する。後鼻孔は長円形で、眼の前方に開孔する。眼は背縁に位置し、円形で吻長とほぼ同長。前鼻孔皮弁と眼上皮弁は分岐する。項部に分岐しない項部皮弁がある。頭部正中線上に皮弁はない。鰓孔は大きく、左右の鰓膜は峽部を横断して連続する。肛門は体の中央付近よりもやや前方に位置する。側線は背鰭第 6 棘付近にかけて緩やかに上昇し、臀鰭起部にかけて急激に下降する。そこから尾鰭基部まで体軸と平行に体の中心を通る。背鰭は低く、中央部に欠刻がある。背鰭起部は腹鰭基底後端の直上に位置し、背鰭棘条部は臀鰭第 2 軟条直上に達する。背鰭軟条部は臀鰭第 4 軟条部直上から尾柄部に達する。臀鰭起部は肛門直後に位置し、臀鰭基底後端は背鰭第 14 軟条直下に達する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端の前後下方に位置し、胸鰭基底下端とともに背鰭第 4 棘直下に位置する。腹鰭起部は項部皮弁直下に位置する。尾鰭は截形で、尾鰭軟条部は分岐する。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) 一体側は白色で、体側中央に胸鰭基底上端から尾鰭基底中央まで銀白色の 1 縦帯があり、その縦帯の上方には黒色斑、下方には褐色斑が 2 対 1 組で

並び、6 組ある。最前方の黒色斑は一部重なり合う。黒色斑の上部には網目状に黒色および褐色を帯びる。頭部上部および吻部は体側に比べて黒みがかり、頭部の背縁部は黄緑色を帯びる。鼻皮弁、眼上皮弁、項部皮弁は朱色を呈する。上唇の下縁に 5 本の黒い横帯がある。吻部および頭部腹面から胸鰭基部にかけて橙色の線模様が複数あり、斑点、弧状または直線状に不規則に途切れる。頭部腹面では線模様が細長い環状になり、3 つの帯が形成される。その内部は黒みを帯び、帯間は黄みを帯びる。頭部腹面の中央には Y 字状の黒い帯がある。眼の後方にやや斜めの黒い帯が伸びる。各鰭の地色は透明。背鰭全体に赤褐色の斜帯が複数並び、斜帯は背鰭縁辺に近づくにつれて黒みを帯びる。斜帯の縁と背鰭鰭条先端は黄みを帯びる。臀鰭鰭条先端および臀鰭基底付近は透明、鰭膜は黄色を呈する。臀鰭鰭条および鰭膜の中央部分は黒みを帯び、臀鰭第 6–15 軟条は赤みを帯びる。胸鰭鰭条は赤褐色を呈する。胸鰭基部には 1 つの黒色斑がある。腹鰭は淡黄色で、腹鰭第 1–3 軟条および鰭膜は黒みを帯びる。尾鰭には三日月状の黄色帯が 3 本あり、尾鰭基部に近づくにつれ黒みが強くなる。

分布 本種はインド・太平洋 (マダガスカルからモリシャス、南シナ海、日本、台湾南部、マリアナ諸島、オーストラリア、ニュージーランド、トンガ、サモア諸島、およびピトケアン諸島にかけて) に広く分布することが知られる (Springer, 1967, 1972, 2000; Wass, 1984; Francis, 1993; Francis and Randall, 1993; 藍澤・土居内, 2013; Williams and Springer, 2022)。日本国内ではこれまで八丈島、小笠原諸島、大隅諸島硫黄島、屋久島、臥蛇島、奄美大島、喜界島、および琉球列島から記録があり (Springer, 1967; 藍澤・土居内, 2013; 目黒, 2013; Nakae et al., 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; 古橋・本村, 2022)、本研究により、宮崎県沿岸における分布が確認された。なお、藍澤・土居内 (2013) での長崎県野母崎の記録は誤りであると判断された (後述)。

備考 調査標本は頭部正中線上に皮弁がないこと、鰓孔が大きく、左右の鰓膜は峽部を横断して連続すること、背鰭軟条数が 16、背鰭は低く、中央部に欠刻があること、胸鰭軟条数が 14、および腹鰭が 1 棘 4 軟条であることが Springer (1967) が記したスジギンボ属 *Entomacrodus* に一致した。また、上顎に犬歯がないこと、背鰭が 13 棘 16 軟条、臀鰭軟条数が 17、胸鰭軟条数が 14、尾鰭軟条がすべて分枝すること、項部皮弁があること、前部側線上に鱗上の突起がないこと、上唇の下縁全体にひだ状の突起物があること、および頭部腹面に顕著な斑紋があることなどの特徴が藍澤・土居内 (2013) の記したケショウギンボの標徴と一致したため、本種と同定された。

日本国内での本種のこれまでの記録は上述の分布の項に示した通りである。この内、長崎県野母崎の記録 (藍

澤・土居内, 2013) で用いられた標本は千葉県立中央博物館分館 海の博物館所蔵の 5 件の魚類標本として保管されている (藍澤正宏氏, 私信; CMNH-ZF 12502, 12503, 12518, 12519, 12556). これらの標本を精査したところ, 上顎に犬歯がないこと, 背鰭が 13 棘 16 軟条, 臀鰭軟条数が 17–18, 胸鰭軟条数が 14, 尾鰭軟条の大部分が分枝すること, 項部皮弁があること, 前方の側線上に鱗状の突起がないこと, および上唇のひだ状突起物が中央部に限られるなどの特徴をもち, これは藍澤・土居内 (2013) が示したホシギンポの標徴と一致した. そのため, 同書におけるケシウギンポの長崎県野母崎からの記録は誤りであると判断した. なお, 同地域を対象とした塩垣・道津 (1973) や田和・竹垣 (2009) で行われている魚類相調査においてもケシウギンポは記録されていない. したがって, 本調査標本は九州沿岸における本種の確実な記録となる.

ケシウギンポは全長 120 mm に達するとされる (Williams and Springer, 2022) ため, 今回得られた個体 (全長 57.4 mm) は未成魚と考えられる. 分布の項で示した通り, 本種の分布の中心はインド・太平洋の熱帯域にあること (Springer, 1967; Williams and Springer, 2022), スジギンポ属は孵化後, 浮遊幼生期をもつとされていること (Neves et al., 2016), 宮崎県沿岸は沖合を流れる黒潮の影響を受ける海域であること, および本県周辺海域の過去の魚類相調査 (例えば, Iwatsuki et al., 2017; 村瀬ほか, 2021) で本種は確認されていないことから, 今回得られた個体は本県よりも南に位置する熱帯もしくは亜熱帯の海域で孵化した稚魚が, 浮遊幼生期に黒潮によって運ばれ, 偶発的に出現した個体であると考えられる. また, 今回の個体は 2 月に得られていることから, 今後本種の九州以北での越冬もありうる. 過去 100 年で黒潮流域である四国・東海沖の海域平均海面水温は 1.39 °C 上昇していること (気象庁, 2026) から, 今後もこれらのような熱帯・亜熱帯性魚類の分布の北上や越冬, 定着がありうるため, 本県沿岸を含む九州以北の黒潮流域におけるさらなる魚類相のモニタリングが必要である.

謝 辞

本研究を進めるにあたり, 神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏氏には標本と写真資料の登録にご協力いただいた. 東京大学総合研究博物館の藍澤正宏氏には本種の過去の知見の情報を賜った. 千葉県立中央博物館の小林大純氏には標本の借用でご協力賜った. 宮崎大学農学部の村瀬敦宣氏には標本作製等でご支援賜った. 匿名の査読者と Ichthy 編集委員の吉田朋弘氏には原稿の改訂に際し, 有益なコメントを賜った. 以上の方々はこの場をお借りして厚く感謝申し上げる.

引用文献

- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013. イソギンポ科, pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊 徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Francis, M. P. 1993. Checklist of the coastal fishes of Lord Howe, Norfolk, and Kermadec Islands, southwest Pacific Ocean. *Pacific Science*, 47: 136–170.
- Francis, M. P. and J. E. Randall. 1993. Further additions to the fish faunas of Lord Howe and Norfolk Islands, Southwest Pacific Ocean. *Pacific Science*, 47: 118–135.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14:1–73.
- 古橋龍星・本村浩之. 2022. トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島における魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 7–18.
- 畑 晴陵・中村潤平・本村浩之. 2021. 薩南諸島から得られたリュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus*. *Fauna Ryukyuan*, 59: 41–49.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 2004. Fishes of the Great Lakes region. Revised edition. University of Michigan Regional, Ann Arbor. xvii + 276 pp.+ 32 pls.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- 岸本浩和・鈴木伸洋・赤川 泉. 2006. 魚類学実験テキスト. 東海大学出版会, 秦野. 130 pp.
- 気象庁. 2026. 海面水温の長期変化傾向 (日本近海). [URL](#) (23 Apr. 2026)
- 目黒昌利. 2013. ケシウギンポ, p. 306. 本村浩之・羽田慎一・吉田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準名と学名. Online ver. 40. [URL](#)
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- Neves, J. M. M., S. M. Q. Lima, L. F. Mendes, R. A. Torres, R. J. Pereira and T. Mott. 2016. Population structure of the rockpool blenny *Entomacrodus vomerinus* shows source-sink dynamics among ecoregions in the tropical southwestern Atlantic. *PLoS One*, 11: e0157472.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1973. 長崎県野母崎沿岸の魚類. 長崎大学水産学部研究報告, 35: 11–39.
- Springer, V. G. 1967. Revision of the circumtropical shorefish genus *Entomacrodus* (Blenniidae: Salariae). *Proceedings of the United States National Museum*, 122 (3582): 1–150.
- Springer, V. G. 1972. Additions to revisions of the blennioid fish genera *Ecse-nius* and *Entomacrodus*, with descriptions of three new species of *Ecse-nius*. *Smithsonian Contributions to Zoology*, 134: 1–13.
- Springer, V. G. 2000. Blenniidae, pp. 632–634. In Randall, J. E. and K. K. P. Lim (eds.) A checklist of the fishes of the South China Sea. *Raffles Bulletin of Zoology*, Supplement No. 8.
- 田和篤史・竹垣 毅. 2009. 長崎県野母崎沿岸の浅海魚類相. 長崎大学水産学部研究報告, 90: 9–18.
- Wass, R. C. 1984. An annotated checklist of the fishes of Samoa. NOAA Technical Report NMFS SSRF, 781: 1–43.

- Williams, J. T. and V. G. Springer. 2022. Family Blenniidae, blennies, pp. 326–383. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 4. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- 吉野哲夫. 1984. イソギンポ科, pp. 282–288. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編）日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.